



文部科学大臣賞
松原弘明
《彫漆盛器「早春」》

第38回 日本伝統
漆芸展

JAPAN TRADITIONAL *Urushi* Works EXHIBITION 2021

2021年 3月13日土－3月28日日

会場 高松市美術館1階【常設展示室1】

観覧料 一般 200円(160円) 大学生 150円(120円) ※()内は20名以上の団体料金 ※常設展示室2もご覧になれます
65歳以上、高校生以下、障害者手帳等所持者は無料

開館時間 9:30～17:00／入室は閉館30分前 ※ただし、3月13日(土)、19日(金)、20日(土・祝)は19:00まで

休館日 月曜日

主催 = 高松市美術館 公益社団法人日本工芸会

後援 = 文化庁 香川県 香川県教育委員会 朝日新聞社 公益財團法人岡田茂吉美術文化財団
四国新聞社 NHK高松放送局 KSB瀬戸内海放送 OHK岡山放送 RNC西日本放送
RSK山陽放送 TSCテレビせとうち

TAKAMATSU ART MUSEUM

第38回 日本伝統漆芸展

JAPAN TRADITIONAL Urushi Works EXHIBITION 2021

2021年
3月13日土—3月28日日

常設展示室 1

日本を代表する工芸として、長い歴史をもつ漆芸。日本伝統漆芸展は、伝統の継承と現代生活への応用を目指し、日本伝統工芸展の漆芸部会場として開かれています。第38回となる本展は、東京・輪島・高松・広島・熊本の5会場を巡回し、受賞作8点を含む入選作品全87点を展示いたします。

重鎮から新進まで漆工芸への飽くなき挑戦がうかがわれる本展覧会は、後継者育成に大きな貢献を果たしています。各地の伝統が育んだ地域性をも展望することができるまたとない機会です。本展が見せる磨き抜かれた技と美への探求とともに、常設展示室2で開催されている高松市美術館のコレクションによる「讃岐漆芸に見る吉祥図」も併せて御鑑賞いただき、漆芸の魅力をお楽しみください。



山下 義人
重要無形文化財保持者 《海 菊醤四方盆》



大谷 早人
重要無形文化財保持者 《籠胎菊醤市松紋茶器》



北岡 省三
《彫漆盛器「碧水」》



須藤 靖典
奨励賞 高松市美術館賞 《乾漆蒔絵蓋物「こもれび」》



石原 雅員
MOA美術館賞 《堆漆象嵌蔓草文小箱》



太田 優
《籠胎菊醤色紙箱「原っぱ」》

第4期常設展

讃岐漆芸に見る吉祥図

Auspicious omen motifs in Sanuki lacquer works

同時開催／常設展示室2

鶴や亀、松竹梅など伝統的な吉祥図は、絵画や工芸作品だけでなく生活の中で目にする広告などにも度々使用されてきました。本展では、様々な吉祥図が見られる讃岐漆芸の作品を展示し、その由来や意味とともに紹介します。

藤川蘭斎《存清饌盒》や磯井如真《存清六角香盆》のモチーフである鳳凰は、元は古代中国の四瑞（現れることが起きる前兆とされる生き物）の一つであり日本でも古くから吉祥を表す鳥として知られています。森象堂《紅花緑葉香合 福寿天来図》や高橋院山《風月三昆福禄壽圖 紅華緑葉香合》に見られる蝙蝠は、「蝠」が「福」と同音であり、おめでたい動物として扱われてきました。古くは奈良時代から着物や工芸品の文様として好まれてきた蝶は、磯井正美が好んだモチーフであり、「鉢巻 むらさき箱」など彼の作品に多く見られます。

同じ吉祥図でも作家によって表現方法や組み合わせは様々です。伝統的な図柄が讃岐漆芸作品においてどのように展開していったのか、それぞれの作品の違いをお楽しみください。



【交通のご案内】

- ◎ JR 四国：高松駅下車、南へ徒歩約15分
- ◎ ことでん：瓦町駅、片原町駅下車、徒歩約10分
- ◎ バス路線：〈ショッピング・レインボーブルバース〉紺屋町バス停下車、徒歩約2分
〈まちバス〉丸亀町参番街下車、徒歩約3分
〈高速バス〉県庁通り下車、徒歩約8分
- ◎ 駐車場：美術館地下に公営駐車場（有料、乗用車約144台収容）



高 松 市 美 術 館
TAKAMATSU ART MUSEUM

〒760-0027 香川県高松市紺屋町10-4
TEL:087-823-1711